

ほとんど知らない オーケストラの話

(第12回・最終回)

オーケストラの収支

東京フィルハーモニー交響楽団
専務理事・楽団長
石丸 恭一

商売には商品価格と言うものがあります。

商品価格を決めるためには原価を出さなければなりません。オーケストラ公演の原価とは、それに対する収入とは、あまり公開されることのない一公演当たりの原価（平均経費）と収入の真実を公開する事にいたします。

まず【経費の部】から。公演を行うホールは貸しホールですので使用料を支払います。サントリーホール代、1回1,700,000円。練習場も借り物です、3日間600,000円。宣伝費・販売費・印刷等事務経費、2,000,000円。楽器償却費運搬費等、800,000円（その他オルガン等特殊楽器が必要な場合は借用料が発生する）。楽譜著作権料・借用料・製作費、1,000,000円。事務局とアルバイト等の人件費、約2,000,000円。楽員費（オーケストラは給与ですので一公演当たりの稼働日数で割る）、7,500,000円。

指揮者代は指揮者によって変わります。また外国人の場合は交通費（ファーストクラス）、宿泊日（4～5星ホテルスイート）等が必要です（日本在住者の場合は通常指揮代のみです）。指揮代1回当たり、1,500,000円～10,000,000円+（宿泊費交通費実費）。共演者代1,000,000円～4,000,000円（外人の場合+宿泊交通費）。合唱団が入る場合、合唱団代、3,500,000円。その他接待費や仕込み雑

費、宿泊費交通費などの平均、1,500,000円。《公演経費の平均額＝28,600,000円》

次に【収入の部】です。オーケストラの収入と言うとまずチケット代があります。

国内オーケストラのチケット価格はほぼ同じです。一席あたり平均約5,500円。ホールの席数は平均1,800席位ですから完売すると、チケット代金、9,900,000円。公的補助金（定期公演）、平均3,000,000円。民間助成金200,000円。寄付金引き当て、2,000,000円。《公演収入の平均額＝15,200,000円》

収入15,200,000円－経費28,600,000円＝▼13,400,000円

何と我々の主催公演は毎回約13,000,000円以上の赤字（持ち出し）で行っているのです。主催公演の回数を40回として実際には全ての数字を40倍した数字になります。チケット代は安価ですね。海外のオケはそれぞれの国の文化政策で全経費の70%程度が公的交付金で賄われており、その政策でチケットは安いのです。日本の文化政策ではN響（NHKより交付）と都響（東京都より交付）のみがそれに当たりチケットも安価です。それに合わせざるを得ないその他のオケのチケット代も安価なのです。交付金の無いオーケストラはその赤字を埋める為に働き募金を行っています。